

始めの祈り

霊操第3週の第1日目 #203 「ご受難の黙想」

望んでいるものを願うこと。ご受難において当然願わなければいけないもので、苦しむキリストと共に苦しみ、砕かれたキリストと共に砕かれ、涙し、わたしのためにキリストが忍ばれたおびただし苦痛のために、内的な苦痛を願う。

映画『パッション』から メル・ギブソン監督 本編127分 2004年から

十字架上でイエスの苦難と救いのわざが交互に描かれています。また、共に歩まれるマリアの姿もあります。観るのが苦しいですが、#203 「ご受難の黙想」にもあるように、イエス様の受難を共にすることができます。今回はカルロ・マリア・マルティーニ枢機卿の2冊の黙想書と照らし合わせながら黙想しましょう。

「パッション」日本版劇場予告 <https://www.youtube.com/watch?v=qDXoV4PShDc>

「パッション」英語版劇場予告 <https://www.youtube.com/watch?v=YGHuesKudwg>

①4つの点から映画を観る（マルティーニ枢機卿の黙想書とつながる）

*イエスの教え・救いのわざ（最後まで人を救う）

*苦難のイエス 謙遜に耐え忍びゆるすイエス（神に委ね権力を使わない）

*兵士と群衆（権力の側につく）

*養成されるマリア（息子の代わりに教会を受ける・信仰の模範）

・我が友たちよ 友のために命を捨てることほど大きな愛はない。

・十字架の台を前にして息が絶える寸前のイエス。罵声を浴びせる群衆

・釘に打ち付けられる場面は目を背けたくなる

・これからの新しい戒めを与えよう。互いに愛し合いなさい。

・これを取って食べなさい。これはあなたがたに与える私の体だ (聖体制定)

これを取って飲みなさい。これは新しい契約の血。罪が赦されるよう、多くの人のために流される

私を思ってこれを行いなさい。これを私の記念として受けなさい (聖体制定)

・お前が神の子なら自分を救ってみろ。群衆の笑い声

・お前は言った、神殿を三日で建て直してみせると。だが、十字架から降りられない(権力を用いないイエス)。降りられたら信じてもいい。

・父よ、どうか彼らをお許しください(無限のゆるし)。彼らは何をしているかわからないのです。

・隣の十字架上の罪人(人生最後に回心する)

聞け 彼はある人のために祈っている。俺たちは罪の報いだ。でもこの人は違う。あなたは私を裁く方。お願いします。み国に入られた時は、どうか私を思い出してください。

今日、あなたは私と共に神の楽園にいる（救いの言葉）

・イエスの足元に近寄る母マリア。血だらけの足を触わり、口づけをする

我が肉体から生まれ、我が思いをかけた　すべて　息子よ。あなたと共に死なせて

・婦人よ、それがあなたの息子です。息子よ、その方があなたの母です。（神に息子を委ねること
で教会がマリアに与えられる神秘）

・我が神、我が神、なぜ私をお見捨てになったのです。救いのみわざは成し遂げられた

父よ、あなたの元に私の霊を委ねます。（人間イエスの叫びの祈り）

・遺体を釣り下ろす。マリアが顔を撫でる、接吻をする。

ここからはマルティーニ枢機卿の黙想書から

② 十字架上のイエスの祈り 『あなたがたは祈るとき』より一部表現を変えています

マルロ・マリア・マルティーニ著　吉向キエ・池田敏雄　共訳　1983年　中央出版社

委託の祈り

イエスは大声で叫ばれた。「父よ、わたしの霊を御手にゆだねます。」こう言って息を引き取られた。

ルカ 23：46

ルカ福音書でのイエスの生涯最後のことばは「父よ、私の霊をみ手に委ねます」という心からの叫びの祈りでした。人間イエスの最後の祈りです。

このことばは、イエスが暗記していた祈りです。苦しみのさなかで、祈りのことばを自分で考え

出すゆとりも時間もありません。そこで、最もよく祈っておられた祈りが、心の叫びとなってほとばしったのでしょう。それは、詩篇(30：2、6 参照)のことばでした。

主よ、私はあなたに逃れました。私は裏切られはしないでしょう。
あなたの正義で、私を救ってください。それから
あなたのみ手に私を委ねます。あなたは私をあがなわれました。忠実な主なる神よ。

イエスは、生涯で最も大切なときに詩篇で祈りました。私たちも同じように聖書(旧約・新約問わず)で人生の最も大事な時を祈ることができます。
イエスが叫ばれている詩篇は、神への完全な信頼のことばです。イエスは、神に自分自身を返され、御父から託された使命を果たします。

十字架上の孤独

しかし、十字架上のイエスはとても辛く孤独です。ルカ福音書は、誰も周りが理解していなかったことを記しています。イエスが、みんなから見捨てられました。イエスを理解できたはずの人たちは、成り行きをただ見えています。兵士たちはむち打ち、民衆はあざ笑います。隣の十字架からもイエスを非難します。神の子イエスは、誰からも理解されず、軽蔑される憂き目で死を迎えます。

十字架から降りない神

民衆はイエスに言います。「お前がユダヤ人の王なら、自分を救うがよい。」(ルカ 23：37)

民衆は「自分自身を救えないなら、イエスを信じられない」と言います。イエスは、味方のいない十字架上で、持っている権力を自分のために使うように要求されます。しかし、イエスはこの権力を使おうとしません。もし使ったら“権力の神”“自己実現の神”を証してしまいます。

福音の神

イエスは、十字架から降りない方を選びました。一人だけで、見捨てられて、誰にも守られずに死なれるのです。しかし、そうすることで“生命を与える神”“人に奉仕する姿”を証します。

このことを背景にすれば、イエスの最後のことばの意味がわかります。イエスは、神からの使命に最後まで忠実でした。外から見たら、完全な敗北、この上ない孤独の中で「父よ、私の霊をみ手に委ねます」と言われます。こうして、イエスは“福音の神”“全てを神に委ねる姿”を証されました。

自己実現か？ 委託か？

十字架上のイエスのことばは、「私はどんな神を信じているか？」という問いを与えます。自分の思い通りにしてくれる神を信じるのか？ 全てを委ねたら永遠の命を与える神を信じるのか？

「私について来たい者は、自分を捨て、日々、自分の十字架を背負って、私に従いなさい。自分の命を救いたい者は、それを失うが、私のために命を失う者は、それを救うのである。」(ルカ 9：23～24) と言っておられます。

「神のみ手に命を渡す」「神に自分を委ねること」で自分の命を救うのです。

反対の「死の状態」は、将来を恐れ、命を与えた方を恐れる姿です。冒険心を失い、将来を神に賭ける心も失っています。

私たちは、イエスが全てを御父に委ねたように、未来を、召命を、仕事選びを、神に賭けましょう。
(イグナチオが目指した生き方)

十字架上のイエスから、権力で人生を操るのではなく、神に委ねる奉仕の生き方を学びましょう。

振り返りの質問

Q. 「父よ、私の霊をみ手に委ねます」と叫びながら祈ったイエス。あなたは神に委ねて生きているでしょうか？

Q. 御葬儀の打ち合わせで「最後の息まで家族のことを考えていました。家族のために与え尽くしてくれました」と言われた方がおられます。あなたは、どのように臨終を迎えるでしょうか？

③ 受難のさなかの福音宣教者イエス

『宣教者を育てるイエス』より 一部表現を変えています カルロ・マリア・マルティーニ著

今道瑤子訳 1988年 女子パウロ会

A) 辱められ沈黙するイエス

「お前を打ったのは誰か当ててみろ」ルカ 22：63～65

「ののしられても・・・」I ペトロ 2：22～23

「主の僕の歌」イザヤ 53章が背景にある

兵士たちはイエスをいたぶりながら考えたでしょう。どうしてこの男は、やり返さないのか？ なすがままなのか？ 預言者なら何かそれらしいことをするはず？ イエスからの反応を期待して
いました。

イエスはどのように対応されたでしょう？ ルカは、イエスが沈黙で応えたことを記しています。

「なぜ私を打つのか？」ヨハネ 18：23b

どうしてこんなむごたらしい姿を通して神はご自分を表されるのか？（「パッション」からも）
理解に苦しみます。

イエスにおいて現われた神の弱さ（無言で耐える）の奥義。私たちは神の言葉として十字架のイエスを受け止めましょう。

神の力は、積極的な行動にだけ示されるものではありません。苦しむこと、謙遜、素朴、柔和に耐えることでも表れます。耐える姿に深い尊厳が輝きます。

人間の尊厳は、権力の側にあるのか？ 苦しみに耐える側にあるのか？ よく考えなければなりません。

振り返りの質問

Q. 気がつかないところで、強い側に立とうとしていたり、強い側を応援していることはないでしょうか？ 弱い側に神が立っている感覚があるのでしょうか？

B) 十字架から降りない神

「あれは他人を救った。自分を救ってみろ。」ルカ 23：35～38

荒野でイエスが最初に受けられた誘惑と似ている。ルカ 4：1～12

メシアとしての権能を自分のために用いよ、と誘惑されている。

背後には、旧約を通して養われた「権能の神」の考えがある（ペトロも旧約で育った）。

「もし、おまえがユダヤ人の王ならば、自分を救ってみろ。降りてみろ。」

「強い神、支配する神を見せてくれ」と兵士や民衆が要求している。

（私たちも同じ神のイメージを持っているかもしれない）

相手の言いなりになって十字架から下りれば、皆がイエスを信じるでしょう。けれどもそうしてしまえば、人間の愛のために死を受け入れる神のイメージは伝えられません。

強い神、成功する神のイメージは与えられても、まだどの宗教でも示されていない、仕える神、人間に命を与える神、すべてを脱ぎ捨てても愛する神、自分を無にする神をイメージさせられません。

十字架から降りないイエスは、愛のために自分を無にする神のイメージをもたらししてくれました。

自分を無にする神の姿を黙想では十分には感じられないかもしれません。けれども、ミサを通して福音の中心を味わうことができます。

「これは、私の体。私の血である。私の記念として行いなさい」と言われ、パンと血になられたイエスの姿から（ミサを通して）自分を無にする神の姿を黙想できます。

自分を無にして仕える神の姿を黙想し、自分を脱ぎ捨てる生き方へと移行しましょう。

振り返りの質問

Q. 権力を使わず、自分を無にして与え尽くす神を感じるでしょうか？ ミサに与るときにも感じるでしょうか？

C) 痛悔した強盗を受け入れるイエス (ルカ 23 : 39~40)

ルカだけが伝える場面。二人のうち一人は最後に回心する美しい場面。

犯罪人は暴力によって生きて来た。権力を持つ強い者が勝つと思ってきた。しかし、自分よりも強い者に負けた。社会への怒り、恨み、悔しさ・・・を抱えて十字架につけられる。

十字架刑という最悪の結末・・・謙遜に耐え忍ぶイエスを見るうちに一人の強盗は新しい世界を見る。暴力が支配するのではない世界。強い者が勝つのではない世界。そんなものを今まで見たことはなかった。

「われわれは、自分のしたことの報いを受けているから当たり前だ・・・」 イエスは何もしていないのに、不正をした側にいる。われわれと違くと、一人の強盗は気付く。イエスは違うタイプの人間なのに同じ刑に処せられている。

一人の強盗の眠っていた正直さが表に出る。それだけでなく、イエスに信頼して「どうか私を思い出して下さい」と願う。

「どうか私を思い出して下さい」 この強盗は、福音を悟った。イエスの父への信頼、無限のゆるしに触れた。十字架の上に、神の力が働いたことを知った。自分を救う力があると悟った。

「イエスに任せよう！」と決心する。

ほんの短い時間に彼は変わった。

「あなたに言うておく。今日、あなたは私と共に樂園にいる」最後にイエスが回心に導いた人。どこでも回心への道はある。

この強盗は、受難の場面だけで福音を信じた。神の栄光を十字架上で見た。

④ イエスが十字架から差し出される救い

『宣教者を育てるイエス』より 一部表現を変えています カルロ・マリア・マルティーニ著

今道瑤子訳 1988年 女子パウロ会

ルカは回心して救われる強盗のエピソードに大きな意味を与える。受難におけるイエスの宣教を救いの活動の頂点にしている。

しかし、わたしたちは「救われたのはたった一人か?」「多くの人はそのまま家に帰ったではないか?」「十字架の意味や本質を理解せずに引き上げたではないか?」という疑問を持ちやすい。

ルカ 15章の3つのたとえ話は、イエスが十字架上で見捨てられた強盗を救う神のイメージと重なる。

どれも「1つ」が強調されている。100匹に対して1匹と釣り合いなほど強調されている。

羊のたとえ ルカ 15：4

どうしてたった1匹のために？ 99匹の安全が確保された内容はない。少し狂気じみている。冷静さを失っている？

一方、神がたった一人に人間、しかも一番小さな人間をどれほど大事にしているかを見ることができる。他の2つのたとえ話（無くした銀貨、放蕩息子）も同様。

たった一人でも、救いを必要とする者がいれば、神はあらゆる配慮をする。そして、救いは神の喜びになる。福音の神はそのようなもの。喜びがいつも強調されている。

「一緒に喜んで下さい。」「祝宴を開くのは当たり前ではないか？」

神は、天地万物をおさめる神ですが、たった一人のために何もかも忘れて喜ぶ方。沈着冷静で平等を求める姿とは異なる。

私たちの反省として、全員に平等に、多くの人に気を配ることを優先しすぎる傾向がある。また、多くの人に奉仕している時には、喜びが湧きにくい。たった一人でも大事、大きな価値があることをイエスは訴えている。愛のこもった神様の配慮がルカ 15章と、救われた強盗の話で示されている。

振り返りの質問

Q. たった一人の救いのために自分を投げ出す神の姿をあなたは何を感じますか？ 日頃の自分の生き方と照らし合わせて何かを感じますか？

⑤ マリアの歩み

十字架のもとに立たれて聖母を観想します。マリアは最初に、神の計画に応えた方。

マリアの歩みを振り返ります。

神様はどのような段階を経てマリアを教育されたのでしょうか？

マリアも「信仰の旅路を進みを遂げられた」（教会憲章 58）の一節を頼りに、マリアはどのように養成されたのか？ マリアの歩みを振り返ります。

「この言葉を聞いて、彼女は胸騒ぎがした」ルカ 1：29

神の新しい世界に接してマリアが受けた最初の衝撃

「胸騒ぎ」と訳されているギリシア語のディエタラクテエは非常に強い言葉。お告げの場面で使ったのは驚くべきこと。他に「ディエタラクテエ」が使われている箇所

マタイ 2：3 「ヘロデのろうばい」 マタイ 14：26 「水上を歩くイエスを見て弟子」

ルカ 1：12 「ザカリアが天使の出現を前にした場面」

マリアもお告げに「一体何事が起こるか？」胸騒ぎを感じた。 もちろんマリアは、祈りの生活、

まじめな生活、聖書を読む習慣を身につけていた。しかし、今は、神様が別の次元に連れて行こう

としているのを感じた。いいなずけのヨセフとの一般的な幸せを手放して、思いも寄らない神の計

画に身を委ねる必要を感じた。

ここから、神の次元に備えてのマリアへの教育が始まる。

マリアにとって「暗夜」が始まったことを福音は告げる。ルカはそれをいろいろな機会に浮き彫りにする。神殿での清め、彼女の心もやりで貫かれることが予告される。12歳での神殿もうででも、思いがけないことが起こった。「どうしてこんなことをしてくれたのです」と訴えるマリアに、イエスは「私が父の家にいるのは当たり前だということを知らなかったのですか」ルカ 2：46～50

受難を予告された弟子たちが「イエスの話された言葉の意味が理解できなかった」という表現されている言葉と同じ。言葉の意味が隠されていた。ルカ 18：34 他

マリアもこの暗夜に入られた。神様の計画は、分かるようでわかりません。同意する一方（マリアは確かに信仰を持っていました）で、心の片隅で母親としての自分の夢見ていたものと違うことを受け入れなければならなかった。

マリアも母として当然息子の成功を、何らかの結果を望んでおられた。

どんな母親にも、自分の息子をわがものにしたい所有欲があります。自分の理想を息子に投影しようとする誘惑があります。マリアの心中で、次第にそうしたものからの離脱がすすめられた。

私たちに、マリアが息子と生きた日々を思うことには限界がある。（映画「パッション」ではマリアが息子イエスとの出来事を回想する場面が度々描かれます）

マリアは、御子の跡を十字架までたどりました。

母として、できることなら自分が代わりたい、何としても防ぎたいと思われた。しかし、神はご自身の計画、イエスが完全に神に委ねることで救い主となる計画を受け入れるように、**神秘的で深遠な仕方でマリアを教育された。**

マリアが御子イエスを御父に渡される時、御子からの贈り物として人類全体（教会）を与えられる劇的な経験をします。マリアは、ヨハネという一人の弟子の母となり、同時に教会の母となります。

(ヨハネ 19：26～27)

マリアは人類と教会を代表しています。神の計画に完全に従い、信仰によって御子をささげたので、**賜物として教会を受けました。**イエスの受難と復活の後に、生まれる教会を御子の体と引き換えに神から受けました。(神秘的な神のなさり方)

マリアは、誰よりも、イエスのいけにえの意味、奉獻の意味、人類への愛、献身の意味を悟ります。

マリアの信仰の歩みは、神がどのように私たちに救って下さるかを悟らせて下さいます。

教会の中に、マリアの存在の本当の意味が回復されるたびに、キリスト者の生活がよみがえります。カトリック教会は、そのように再生してきました。マリアの生き方を深めることが、私たちの信仰を成長させます。

振り返りの質問

Q. 受胎告知から十字架までのマリアの歩みを振り返りましょう。あなたは、マリアのどのような点を学んできたでしょうか？ これからどのように倣っていきますか？

結びの祈り

自分をささげる祈り（聖イグナチオ）

主よ、わたしの自由をあなたにささげます。わたしの記憶、知恵、意志をみな受け入れてください。

わたしのものはすべて、あなたからのものです。今、すべてをあなたにささげ、み旨に委ねます。

わたしに、あなたの愛と恵みを与えてください。わたしはそれだけで満たされます。それ以上何も

望みません。

参考文献

映画『パッション』メル・ギブソン監督 本編 127分 2004年

『靈操』聖イグナチオ・デ・ロヨラ 著 ホセ・ミゲル・バラ訳 新生社 1986年

『あなたがたは祈るとき』

マルロ・マリア・マルティーニ著 吉向キエ・池田敏雄 共訳 1983年 中央出版社

『宣教者を育てるイエス』 カルロ・マリア・マルティーニ著 今道瑤子訳

1988年 女子パウロ会

『カトリック祈禱書 祈りの友』 カルメル修道会編 サンパウロ 1980年